

■ 介護認定審査会運営での大きな課題点

① 介護認定審査会事務における業務負担による審査会事務の遅れが認定の遅れにつながっている

- ・高齢化率の上昇に伴う申請件数の増加により、申請から認定までに要する期間が慢性的に長期化。
- ・地域間連携自治体からDocuworks上でデータを受信後印刷し、文章校正を行う。疑義が生じた際は病院、認定調査員への聞き取りまたは各自治体の担当者へ確認を行い、当町で3町分の修正と印刷を繰り返す。
- ・各自治体との個人情報情報がマスキングされていない状態でのデータ授受による個人情報に関するセキュリティ面の不安がある。

② 紙媒体による審査会運営で発生する膨大な時間と費用のムダ

- ・担当者は業務時間の殆どを費やし、時間外業務を行っても、他の住民サービスに従事する時間の確保は困難。
- ・審査会資料は紙媒体かつ枚数が多い、閲覧できる場所が限られる。

60回の審査会でおおよその紙の使用量

A3：平均473枚×60回＝28,380枚（約19箱分）、66,120円（1箱3,480円）

A4：平均208枚×60回＝12,480枚（約5箱分）、14,500円（1箱2,900円）…これらは審査会後すべて**裁断・廃棄**

印刷費

調査票・資料の原本1部：月平均16,953円×12か月＝203,436円

コピー：1.1円（税込）×年間約28,500枚＝31,350円

合計すると年間約40,000枚の紙の廃棄と、約315,000円分の費用がかかっている。



■ ペーパーレスシステムを導入し、運営を効率化

- ・審査会委員（5名×3合議体）と構成3自治体にアプリケーションをインストールした端末（携行できるようSIMタイプタブレット）を配布し、クラウド上でのデータ共有を可能にする。

導入効果は以下を想定。

- ①印刷、送付の手間と時間の削減
- ②資料の軽量化、即時の資料閲覧による時間的負担軽減
- ③紙媒体と同様にメモの書き込みが可能で、なじみやすい
- ④事前の判定集計により、審査会に要する時間の短縮
- ⑤一連の作業で発生する紙代や郵送料を大幅減

申請から結果通知までを円滑に行うことによる**申請者の安心感**、**審査会業務以外への時間配分による他の住民サービスの向上** また、紙の使用量削減による**環境に配慮した審査会運営の実現** へつなげる

